

暴力の中の一年

中央アフリカ共和国の子どもたち

unicef 





2014 年 7 月中央アフリカ共和国を訪れた

ミア・ファローUNICEF 親善大使

「この身震いするような過酷な状況にあっても、正義と信念を貫く無名のヒーローがいます。医師や保健従事者は、自らの命の危険を顧みず怪我人や病人を助けています。イスラム教、キリスト教双方の指導者は、民族や宗教に関わりなく逃げてきた人々を匿っています。」

忘れ去られた人道危機

昨今「中央アフリカ共和国」という文字がニュースや記事に現れることはほとんどありませんが、国中を脅かすこの人道危機は今も尚続いています。今から一年前の2013年12月、中央アフリカ共和国の状況は「慢性的な政情不安」から「複雑な構造の人道危機」に様相を転じました。2013年3月にクーデターを起こし政権を奪取した武装勢力セレカへの反撃として、自衛集団である武装勢力アンチ・バラカによる反撃が始まり、首都バンギでの戦闘は激烈を極めていきました。戦闘は国内全域に広がり、両武装勢力によるあらゆる暴力、略奪行為が横行し、人道状況は急激に悪化しました。

一年後の現在でも、約250万人が何らかの支援を必要としており、全人口のおよそ分の1を占める85万人が家を終われ、国内避難民としてもしくは難民として近隣諸国に逃れて暮らしています。



©UNICEF/NYHQ2014-0318/Grarup

- ・人口460万人の内、紛争によって被災した人：250万人
- ・国内避難民、もしくは難民となって近隣諸国に避難した人：85万人

(2014年12月5日時点 国連高等難民弁護官事務所 (UNHCR) 統計)

地域全体への影響

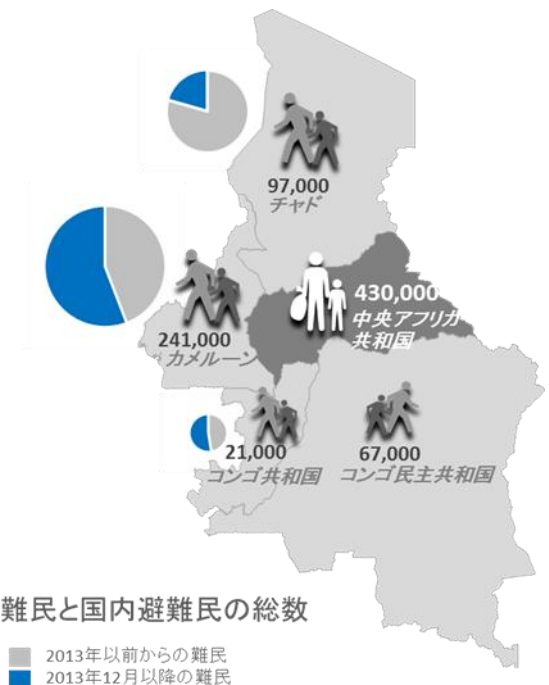
Effects on children in Cameroon, Chad, Democratic Republic of Congo and Congo

中央アフリカ共和国で起こった激しい暴力の連鎖で、何十万もの難民、帰還民、また第三国

の人々が、カメルーン、チャド、コンゴ民主共和国及びコンゴ共和国に逃れました。この内実に80%以上を子どもと女性が占めています。

UNICEFは以下のように、こうして避難した人々と、彼らを受け入れる側のコミュニティーに対して支援を行っています。

大規模な難民流出は地域全体の不安定化を招く要因に



子どもにとって世界で 最も過酷な場所

子どもたちはこの人道危機の只中にいます。UNICEFは、毎日少なくとも1人の子どもが殺傷されていることを確認しており、また、およそ1万人もの子どもが武装勢力に徴用されています。何千人もの子どもたちが家族を失う、もしくは離別したり、誘拐、性的搾取の犠牲となっています。

2014年、50万人もの子どもたちが家を終われました。暴力から逃れるため、茂みに身を潜めていたり、武装勢力に囲まれて身動きのとれない人々は特に危機的な状況にあります。これらの子どもたちは、絶え間ない恐怖の中生きており、食料、水、保健、教育等の基本的サービスを文字通りまったく受けることができず、人道支援に頼らなければ生命を保つことすらできません。その人道支援すら、頻発する暴力の連鎖によって常に妨害を受けています。

暴力と動乱の一年

最も激しい暴力が横行した時点から1年、中央アフリカ共和国の現状は平穏とは程遠く、子どもたちの状況は更に過酷なものとなりました。この紛争は武装組織が増加・分裂するなど複雑な様相を呈しており、民族間の信頼関係は崩壊し、武器の使用が蔓延しています。マイノリティの住民は、避難することができずに、同国の西部及び中心部で包囲された状態で孤立状態となって身動きが取れないなど、虐殺を含む暴力の危険に晒されています。治安が改善した地域であっても、家、学校、診療所、倉庫が破壊され村が焼かれていたり、家畜が殺され、家財道具なども略奪されるなど、避難先から戻っても過酷な貧困状態が待ち受けます。

この過酷な人道危機の只中にいる子どもたちを、世界は忘れてはなりません。

現場での活動：紛争の前、 紛争中、そしてこれからも

UNICEFは、この紛争の前も、紛争中も、中央アフリカ共和国で活動してきました。そして今後もこの国も子どもたちの命と将来を守るべく、活動していきます。2013年8月、同国西部に位置するボサンゴアで起こった戦闘で、数千人もの人々が家を終われました。UNICEFは、いち早く駆けつけた人道支援機関のひとつとして、避難した人々に避難所を形成するプラスチックシート、バケツ、衛生用品等の緊急支援物資を配布しました。

2013年12月、首都バンギにおいて暴力の応酬が最悪レベルに達した数日後、UNICEFは同国における人道危機を最も深刻な「レベル3」に引き上げました。150人もの人員を現地に動員し、ボサンゴア、バンバリ、カガ・バンドロー、ボアー、ゼミオ、ンデレに新たに地域事務所を設立し、迅速に人道支援体制を強化、拡大しました。2014年、UNICEF中央アフリカ共和国チームは、保健医療、水衛生、栄養、教育、子どもの保護の分野で少なくとも140万人の人々に支援を届けることができました。また、UNICEFは教育、栄養、水衛生及び子どもの保護の分野で、人道支援の連携を図る役割を担っています。



困難に立ち向かう無名のヒーロー



©UNICEFCAR/2014/Logan

看護師のレミーは、絶望的にも見える困難な状況の中でも、自らのリスクを背負いながら人々を助け続けました。

アフリカの真ん中に位置し、世界で最も貧しい国々のひとつ、今は紛争の中にある中央アフリカ共和国。その全人口の4分の1が避難を余儀なくされました。なぜ中央アフリカ共和国を支援する必要があるのか？それは、1人の小さな英雄、レミーの故郷だからです。

レミーは看護師です。私たちが彼に会った時、彼は家族と一緒に避難民キャンプで暮らしていました。同時に、レミーは武装組織が襲われ、村を焼かれ、林や茂みに隠れていた何千もの人々を治療するための活動を続けていました。国の最西部で、人々の治療を行うため、彼はでこぼこだらけの未舗装道路をバイクで走ります。木の枝を積んでバイクを隠すと、患者のいる茂みを診療かばんを抱えて歩いて回りました。治療を終えると、再度、歩いてバイクまで戻り、悪路を自分が住む避難民キャンプまで戻るのでした。.

この国には彼のような日常の中のヒーローが何千といます。避難民キャンプのトイレを自ら行う人、不安定な小さなボート遠隔地にワクチンを届けるボランティアたち、イスラム教徒を匿うキリスト教司祭、平和を説き広めようとするイマーム（イスラム教指導者）、子どもを武装組織から解放するため交渉する人々...。

中央アフリカ共和国は貧しい国ですが、だからといって精神が貧しいわけではありません。紛争の中にある国ですが、その中で困難に立ち向かい平和のために日々活動する小さな英雄たちの存在が、この国に希望の光を投げかけています。



子どもの 保護

子どもの安全を確保する

中央アフリカ共和国での激しい暴力の連鎖は、コミュニティー同士を敵対させ、子どもたちは暴力の渦に飲み込まれています。



©UNICEF 2013/Matas

「戦闘にいった友達の何人かは戻ってこなかった。戻ってきた友達が、その子たちが死んだことを教えてくれたんだ。最前線に行けっていう命令でたたき起こされるんじゃないかって、心配しながら毎晩眠るんだ。」

17歳のアンドレは、武装組織から開放され、UNICEFとその協力団体の支援を受け、家族とコミュニティーに戻ることができました。

UNICEF は、今この時も、1 万人もの子どもが武装勢力に使用されていると推測しています。これらの子どもたちは、大人と同様に戦闘に加わったり、荷物運び、料理や雑用をさせられたりしています。武装勢力に徴用される子どもの 4 人に 1 人は、特に性的搾取の犠牲になる危険が高い女の子です。

この紛争の中で、1 日につき少なくとも 1 人の子どもが殺害されたり、重大な怪我を負わされています。犠牲になった子ども一人ひとりのケースを見れば、この紛争のたてようのない残酷さが浮かび上がってきます。暴力から逃れて教会に向かっている時や、学校に行く際に殺害された子どももいます。なたで切り付けられたり、遊んでいた場所の近くで爆発した手榴弾で大怪我を負った子どももいます。これらは UNICEF が子どもに対する重大な権利侵害として確認しているケースで、こういった暴力、そして紛争によって崩壊した保健サービスや、危険であるために病院に行けないなどの理由で命を落とした子どもたちを含め、実際には遥かに多くの子どもたちが犠牲になっていると考えられます。

UNICEFの対応

- これまでに**2,100**人以上の子どもたちが武装グループから開放されました。
- 約**65,000**人の子どもたちが心理社会的サポートを受けました。
- **540**人の家族から離別した子どもが家族に戻ることができました。
- **2,200**人以上のの性暴力の犠牲者が医療・心理的支援を受けました。

2015年の活動目標



©UNICEFCAR/2014/Avakian

- **5,000**人の子どもたちが武装組織から開放され、コミュニティに戻り、教育の機会を得る。
- 性暴力被害者の女性と女の子たちが適切な支援を受けること
- **100,000**人の避難民及び社会的に脆弱な子どもたちが、心理社会サポートを受けること。

コミュニティを恐怖に陥れたり、家族の絆を崩壊させるための手段として、武装勢力による女性や子どもに対する性暴力が横行しています。UNICEF と協力団体はこれまでに **2, 200** 件の性暴力被害者を支援してきました。報復に対する恐怖や、支援へのアクセスがないことから、多くの女性や子どもがレイプや他の犯罪を届け出ることが出来ず、子どもの保護専門家は UNICEF によって把握されているケースは氷山の一角に過ぎないと考えています。

紛争で多くの人が国内避難民・難民となったり殺害されたことによって、多くの子どもが家族を失ったり離別しています。UNICEF はこれまでに家族から離別してしまった子ども **540** 人を家族のもとに戻すことができました。彼らの中には何日も 1 人で歩いてようやく安全な場所にたどり着いた子どもも多く、また安全な場所にたどり着けずに搾取や虐待を受け、更には武装勢力に取り入れられる危険がある中で暮らす子どもも多くいます。



©UNICEFCAR/2014/Logan]

着の身着のまま 6ヶ月ぶりに見た我が家の焼け跡

彼女の村の3千もの家が焼ける煙がたちこめる中、ベロニク・ネムは彼女の11人の子どもたちを集め、食料をつかんで茂みの中に駆け出しました。必死で走る中、銃声と武装した男たちの叫ぶ声が遠のいていきました。彼女と子どもたちは、彼女がキャッサバを育てる小さな畑までたどり着きました。



©UNICEFCAR/2014/Logan

その時は、その後6ヶ月もの間、茂みの中に隠れて、木の枝でつくった粗末な家で、野草や果物を食べ、沼の水で生き延びることになるなどとは、予想もしていませんでした。

生活必需品が圧倒的に不足する中、彼女の子どもたちは次々に体調を崩しました。6ヵ月後ようやく村に戻るまでに、彼女は子ども1人を亡くしました。その子が病気になった時、治療することができず、その子を守ることができませんでした。

戦闘の中心となった故郷の町

ベロニクの生まれ故郷であるボホング(Bohong)は、2万人の人口を擁し、大規模な病院や学校のある中央アフリカ共和国西部の町でした。しかし、2013年、ボホングは激戦地域になり、1万5千人もの人々が家を追われ、6ヶ月の間ゴーストタウンと化しました。

2014年3月に武装勢力が去った後、人々は町に生活を立て直しに戻ってきました。UNICEFは人々が町に戻り、新たな生活を始められるよう、ルーテル世界連盟と協力し、UNICEFは11の井戸を修理し、各家庭に燃料缶、石鹼また自分たちで穴を掘って作ることのできるトイレ用キットを配りました。

復興に向けて

中央アフリカ共和国西部では、暴力から逃れて茂みに隠れて暮らしていた人々が続々と故郷に帰還しています。UNICEFは同地域における対応を、「緊急対応」から「基本的社会サービスの復旧」にシフトしようとしています。

車でボホングを走っていると、まだまだたくさん焼け落ちた家屋があり、町全体が空っぽのように見えるかもしれません。ベロニクの家も焼失したために、彼女は避難してまだ帰らない他の家族の家屋に住んでいます。

私たちの「明日への希望は何ですか？」という問いに対する彼女の答えは本当にシンプルで、当たり前にあるべきものでした。「学校が再開すること、無料の医療サービス、そして平和が欲しい」。



©UNICEFCAR/2013/Duvillier



保健医療・ 栄養

子どもの命を守る

子どもと女性の保健状況は、紛争によって壊滅的な損害を受けました。中央アフリカ共和国は、紛争前でも、6人に1人の子どもが5歳になる前までに命を落とし、妊婦の死亡率が世界で3番目に高いなど、世界で最も劣悪な保健環境の国のひとつでした。紛争中に、国中の3分の1の診療所が破壊されたり略奪され、また医療関係者は暴力への恐怖から職場を去らざるを得ませんでした。多くの診療所が破壊されたことで、予防接種などを含む定期的に行わなければならない医療保健サービスが停止し、コールド・チェーン（低温を保った物流、ワクチンなどの医療必需品を運搬する際に必須のシステム）が崩壊し、ワクチンが失われました。

子どもにとっての最大の死因はマラリアと下痢ですが、暴力の連鎖によって避難生活をしなければならなくなったことで、マラリアと下痢の症状を更に悪化させる栄養不足に伴い、更に多くの子どもが命の危険に更に晒されています。紛争の前でも、マラリアを防ぐ蚊帳の中で眠ることのできる子どもは36%のみ、トイレを使うことができ、石鹸や安全な水を得ることのできる子どもは5人に1人だけでした。

紛争によって自分たちの家や所有物を置いて避難せざるを得なかった人々は、在り合わせのもので作った家に住み、多くが蚊を避ける物やトイレはなく、衛生的な環境から程遠い状況にあります。

新たに行われた調査では、紛争前にすでに34%の子どもに見られた低体重（慢性的な栄養不良により、年齢に対する適正体重より著しく低体重であること）が40%に急激に増加していることがわかりました。農業の営みが止まってしまったこと、食料の値段の急騰、また多くの人々が土地を離れ避難したことが原因と考えられます。

中央アフリカ共和国は中央アフリカ地域において、成人のHIV感染者の割合が最も高い国のひとつで、全体の成人の感染者の割合は7.8%にもなります。紛争の最中、診療所が閉鎖され、国全体で治療薬やコンドーム等が不足したことから、何ヶ月もの間HIVテストや治療、母子感染を防ぐ対策を受けられなくなりました。その為、感染のリスクが増加し、薬への耐性が形成され、妊娠中のHIV感染者が子どもに感染するのを防ぐことができなくなりました。

UNICEFの対応

- 100万人以上の子どもがポリオ予防接種を受けました。
- 50万の蚊帳を家庭に配布しました。
- 22,300人の重度の栄養失調の子どもが治療を受けました。
- 140万人もの人々が基本的な薬を受け取りました。
- 36,000人以上の女性がHIVについてのカウンセリングを受けました。



©UNICEFCAR/LeMoy©UNICEF

2015年の目標

- **732,000** の5歳以下の子どもがはしかの予防接種を受ける。
- **1,171,400** 人が保健医療サービスを受け、薬が手に入るようになる。
- **22,700** 人の重度の栄養失調の子どもが適切な治療を受ける。
- **21,000** の女性が乳幼児への授乳や食物摂取について知識を高める
- **4,250** 人のHIVに感染した母親をもつ子どもが適切な治療を受ける。
- **77,380** 人の妊婦はHIV/AIDSについてのカウンセリングを受ける。
- **25,000** 人がHIV/AIDSについてのカウンセリングやテストを受ける。



「私たちが住んでいた場所で起こっていた戦闘や暴力のため、4ヶ月間私の赤ちゃんを病院に連れていくことができませんでした。」とクラウディアは言います。「家から逃げてきた時に予防接種記録を置いてきてしまったので、この子がどの予防接種を受けていないのか、わかりませんでした。」クラウディアの娘のメラニーちゃんにはしか、黄熱病、ポリオの予防接種を受けることができました。



HIVに感染していると知らされてから2ヶ月間、私の心の支えは母子感染支援グループでした。」そう語るマリアムは、夫を殺害した武装勢力に家を焼かれ、教会に避難して暮らしています。そこで出会ったソーシャル・ワーカーに、HIVのテストを受けるよう勧められたのでした。彼女自身がHIVに感染していること、そして彼女の赤ちゃんも感染していることがわかった時、恐ろしくて震えました。



全ての患者を受け入れる

ベルベラティの町の中、1936年に建設された小さな建物が、UNICEFの支援で建てられた新しい建物の横にひっそり立っています。この建物は、築およそ80年になる、手術室で、酸素吸入機も心電図も、麻酔を投与する機材もない、最低限の医療器具と小さな発電機があるだけでした。



現在建設中の新しい手術棟

この手術室が、医師であるジャン・ティエリ・ベホウンデが2012年にベルベラティに主任医師として着任してからの仕事場でした。2014年1月にベルベラティで戦闘や暴力行為が横行するようになるまでは、ベホウンデ医師の手術は主に出産の際の帝王切開でした。

しかし、武装勢力が来てからは、銃弾による怪我の手術が週に10から30件になるなど、手術件数が3倍にも跳ね上がりました。

「今の手術室は容量いっぱいです。この病院は半径100km、18万人ものベルベラティの人々をカバーしなければなりません。それに、医療機材がないので、複雑な手術は不可能です。このような老朽化した建物では適切な殺菌ができないので、多くの感染もありました。」とベホウンデ医師は言います。

全ての患者に開かれた病院

ベルベラティ病院の入り口に掲げられている看板にはこう書いてあります。「あなたが誰であるか、何をしている人か、あなたの出自、宗教を言う必要はありません。苦しんでいる、それだけであなたは私たちの患者です。」

過去6ヵ月間、様々な武装グループが戦闘をしてきたベルベラティ。病院の職員は医療活動を止めるよう、武装組織に脅されたこともあるといいます。

「この病院の敷地でもたくさんの銃弾が転がっていますよ。」と言って、ベホウンデ医師は、患者の体内から摘出された銃弾を見せてくれました。

市長も政府の役人も町から逃げ出しましたが、医師たちは残りました。民族間・宗教間が複雑に絡み合った紛争の中にも関わらず、ベホウンデ医師と同僚たちはイスラム教徒もキリスト教徒も分け隔てなく治療しました。

「この町を武装グループが占拠した時には、私はこの病院で寝泊りしていました。武装兵士たちにこの病院に入らないよう頼みましたが、病院の唯一の車を奪われてしまいました。」

命を救う：新しい手術棟

新しい手術棟でたくさんの命を救うことができると、ベホウンデ医師は言います。UNICEFイタリアの協力で建てられている手術棟には、冷房完備の大きな手術室2部屋、殺菌処理用の2部屋、手術準備及び手術後用の部屋、またスタッフの事務所が備わります。



教育

子どもたちに教育を

—どのような環境にあらうとも



©UNICEFCAR/2014/Logan

“教育の復興はあらゆることの礎を築くことなのです。”

-私の生徒たちには、暴力や報復ではなく、誠実さと寛大な心を持ってほしいのです。そして彼らが見てきた悲惨な暴力から立ち上がってほしい。

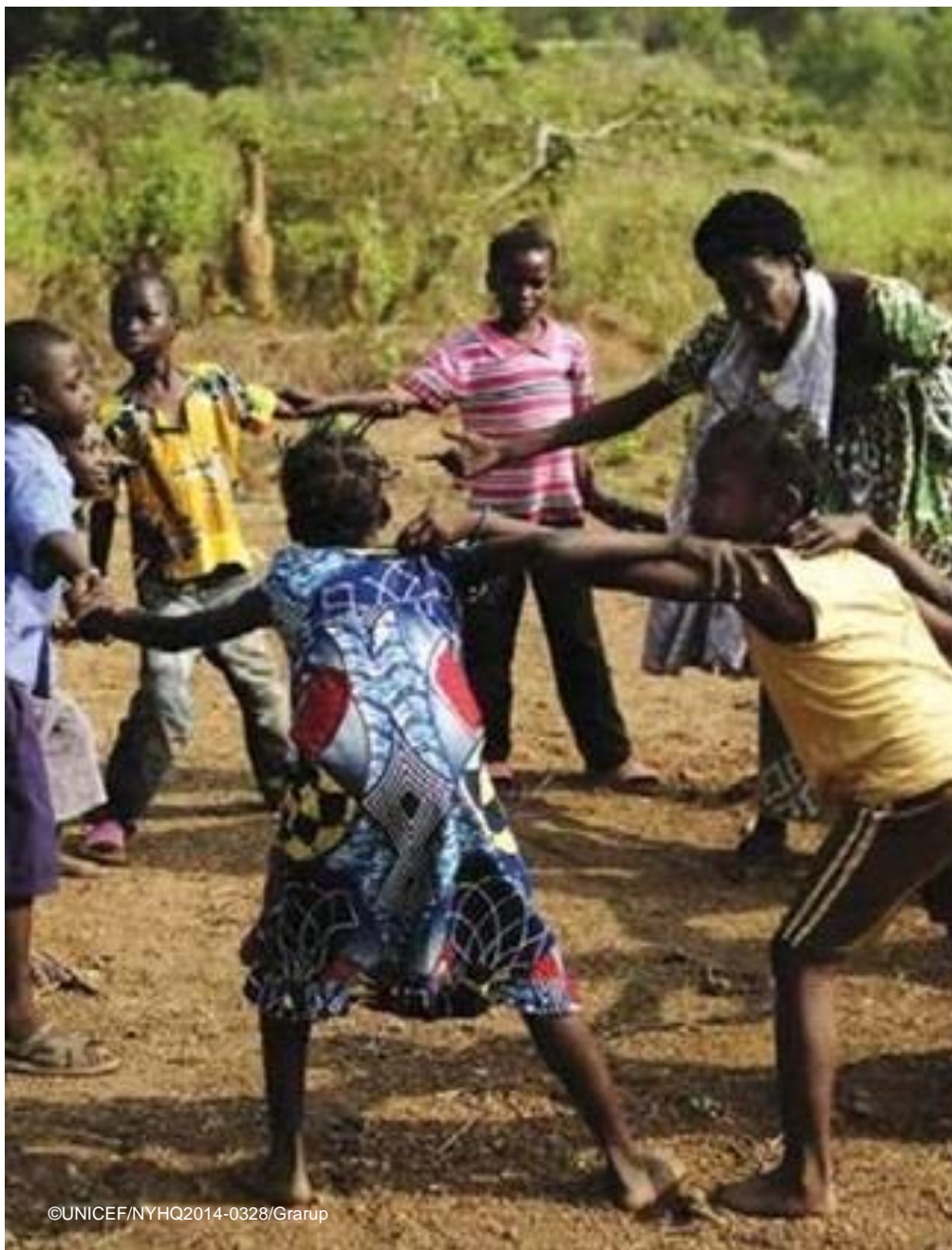
こう願うアントニエッタは、首都バンギの避難民キャンプでUNICEFが支援する仮設学校の教師です。

この紛争で、中央アフリカ共和国の教育は甚大な犠牲を払いました。国全体の半分以上の学校が閉鎖され、また、3分の1の学校が、銃による攻撃、放火、略奪を受け、武装勢力によって占拠される学校もありました。2014年2月の調査によれば、2013年時点で学校に通っていた子どもたち100万人の内、実に4分の1以上が学校に行っていないことがわかりました。また、多くの教員が、身の危険や、給与の不払いもしくは支払いの遅れのため、教壇に戻っていません。長期に亘って学校にいけないことで、子どもたちが武装勢力に徴用されるなどの搾取や、性的暴行の犠牲になるリスクが高まります。教育を受けない世代を生み出さないためにも、学校を速やかに再開し、適切に運営されるよう支援することが不可欠です。

今年11月末、662,000人の子どもたちを対象に「バック・トゥ・スクールキャンペーン」が開始されました。UNICEFと協力団体は、国全体の大規模な教育復興の一部として、学用品やリュックサックを40万人の子どもたちに配布しました

UNICEFの対応

- 国中の危険地域を含む地域で「仮設学校」を設立し、**60,170**人の子どもが教育、レクリエーション活動、また心理社会支援を含む支援を受けました。
- 治安が許す地域において、「バック・トゥ・スクール・キャンペーン」を通じ、学校を再開、**662,000**人の子どもたちが通常の学校に戻って学んでいます。
- **115,500**人以上の子どもたちに学校に戻るための学用品を配給し、また紛争で被害を受けた**200**以上の学校で、教室やトイレの修繕、学校備品の供与を行いました。



©UNICEF/NYHQ2014-0328/Grarup

2015年の目標

- 避難民となった**3歳から17歳**の子ども**6万人**が教育の機会を得る。
- 紛争によって被害を受けた子ども**4万人**が学用品や遊具を受け取る。
- **550校**が破壊された校舎を修復するための支援を得る。

埃まみれの学校を再開した 勇気ある校長先生と教師たち



©UNICEFCAR/2014/Logan

ベルベラティにある学校を再開した グポイリ校長先生

グポイリ校長先生が、彼女の学校のドアを開けた時、教室で使える物はなにも残されていませんでした。

「そこで、教えるためにチョークを、生徒のためにノートやペンを自分で買いました」。これらの費用は、この国の教師の平均賃金である彼女の私費でまかなわれました。彼女の同僚の6人の先生も同様のことをしました。

中央アフリカ共和国西部の町ベルベラティにあるグポイリ校長先生の学校は、激しい戦闘・暴力の起こった3ヵ月間の間閉鎖されました。このため、彼女が再び学校を開けると、校舎はすっかり荒れていました。しかし、校長先生は、教育を再開することこそが、子どもたちを「日常生活」に戻し、未来への希望を与えることだと信じていました。彼女は2014年4月に学校を再開しましたが、7月までに戻ってくることでできた生徒は元の600人の内半分だけでした。

「生徒たちは、学校に行くのにも勇気を振り絞らなくてはならないんです。」町はまだ安全なわけではありません。「生徒の親は、まだ子どもたちを家の外に出すことを恐れているんです。」

公教育はこの2年間の治安悪化によって国中で大打撃を受けました。中にはまる2年間公教育の機会を失った子どももいます。2014年12月には、UNICEFの支援を受けて、国中の662,000人の子どもたちをもう一度学校で学べるようにする「バック・トゥ・スクール・キャンペーン」を通じて学校に戻ることができました。

グポイリ校長先生は、学校を再開することでコミュニティに信頼と平和を取り戻すことができると信じています。UNICEFはこの学校で、生徒たちにノート、鉛筆、消しゴムと鉛筆削りといった学用品を配りました。

この学校を訪れれば、ほぼ全員の子どもたちがUNICEFの学用品を持っていることがわかります。校長先生は、学費を払えない家庭の子どもたちの学費免除も始めました。そして、まだ教師が足りていないため、彼女自身も一日中教室で教鞭をとっています。

4月に学校を再開してから彼女は、中学校に進学するための試験を受験したい19人の女の子たちを支援してきました。女の子たちは危険を顧みず毎日学校に通い、7月中旬の試験で16人が入学試験に合格することができました。

「私は特に女の子への教育が重要だと信じています。教育は女の子の早婚を防止し、結婚の前に彼女たちが自分たちの人生を築く機会を与えてくれます。」と校長先生は言います。

「子どもたちは私たちの将来です。彼らがこの国を発展させなければなりません。彼らが学校に行けるようにするために、私はやれること全てをするつもりですよ。」



水衛生

安全な水と衛生環境を

UNICEFの対応

- UNICEFは、給水企業を支援して水供給パイプラインを修復、様々な地域への水の運搬、また僻地での井戸の修復を通じ、**415,500**人以上の人々に安全な水を届けました。
- **220,800**人以上の国内避難民キャンプの人々がトイレをしようすることが出来るようになり、**308,300**人が燃料缶や石鹼等の衛生必需品を受け取りました。

安全な水と衛生環境は、日本含む多くの国では当たり前のものとして捉えられています。しかし、中央アフリカ共和国では多くの人にとって手の届かない大変貴重なもので、紛争によって更に手に入りづらくなりました。

水供給やごみ回収システムは、略奪に遭ったり、燃料、ポンプ、発電機等の必要品が不足するなどして機能しなくなりました。暴力から逃れて、茂みに逃げ込んだ人々は、汚染された川や、池などの水を使用しています。

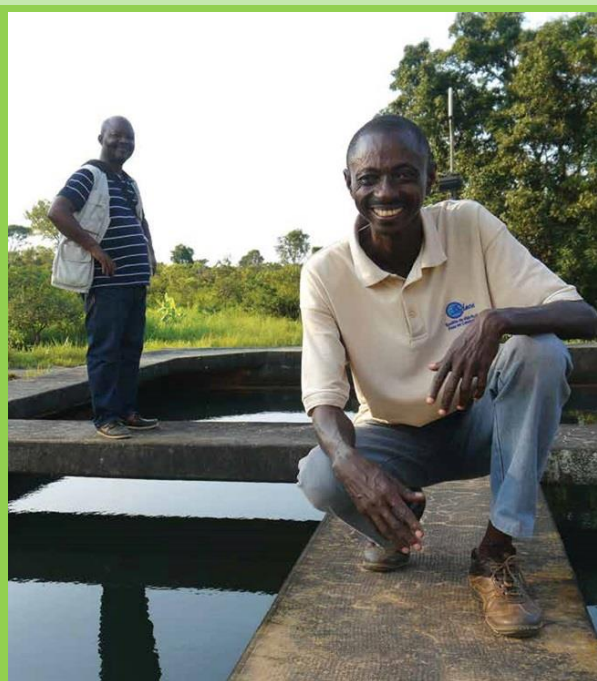
“紛争の前ですら、安全な飲料水を手に入れることのできるのは人口の半分、トイレを使用できたのは5人に1人”

紛争によって更に状況が悪化しました。水衛生の状況は特に遠隔地で劣悪で、子どもたちは水を媒体として感染する下痢やコレラに罹りやすい環境にいます。中央アフリカは乳児死亡率（生後12ヶ月以内に死亡する割合）が世界で7番目に高い国ですが、下痢はマラリアに続いて2番目に高い死因です。

2015年の活動目標

- 紛争によって影響を受けた**45万人**の人々が十分量の安全な水へアクセスすることができる。
- **170万人**の避難民もしくは避難先から帰還した人々が、適切な衛生環境で生活することができる。
- 紛争によって大きい影響を受けた地域において、**30万人**が水衛生や生活必需品の配布を受ける。

希望を張り巡らせる -水供給の復旧



©UNICEFCAR/2014/Logan

UNICEF水衛生専門家のフレディ・マチャンベと国営水供給会社（SODECA）のエンジニアのヘンリ・コンゴ。欧州委員会人道援助局（ECHO）が支援したボアーの水供給施設にて。

中央アフリカ共和国での暴力の連鎖が始まり、武装グループによって、この国のほとんど全ての水供給施設が略奪されたり攻撃を受けました。そのため、給水サービスは停止し、人々は井戸で水を得るようになりましたが、使用する人が増加し

たために水が不十分になりました。UNICEF は早急に解決策を見出さなければなりませんでした。そこで、現地の専門家に頼ることにしたのです。

UNICEF が、村々から大きな町に流れ込んで来る何千もの避難民に十分な水を届けるようになるためには、略奪された給水施設を修復することが不可欠でした。そうするためには、ヘンリ・コンゴのような現地の専門家の助けが必要だったのです。

ヘンリは、国営の水供給会社（SODECA）で 10 年以上勤務していた経験から、現地の市場で手に入れることのできる道具で揚水施設を修理する技術をもっていました。UNICEF は、欧州委員会人道援助局（ECHO）の支援を得て、ヘンリが必要とする修理のための主要な設備を供給しました。

配線用ワイヤー、安価な電気計測器、新しい発電機、燃料と塩素。これらを使ってヘンリは中央アフリカ共和国の主要都市であるボサンゴアの 45,000 人もの人々に安全な水を供給することができました。ヘンリは現在、ECHO の支援によるボアーでの水供給施設を運営してしており、他にもボゾウムとベルベラティの水供給施設を修復しているところです。

“井戸の水が尽きて、みんな苦しんでいます。彼らに水を供給するために、出来ることは何でもしては。”

この現地の水供給会社と UNICEF という新たな連携が上手くいくのか、国営の水供給会社が現在の緊急事態に対応できるのかと心配する人もいた、と UNICEF の水衛生専門家のフレディ・マチョンベは振り返ります。「そういう人には「見ていればわかる」と言いました。私たちには確固とした自信があったし、実際に上手くいきましたよ」。

当初の目標は紛争で避難した人々に一日当たり 15 リットルの水を供給することでした。「でも、SODECA を支援することで、全ての人々が安全な水を手に入れることができるようになったのです。」とフレディは言います。「もしこの連携が無かったら、この町のような中央アフリカ共和国の主要都市で何ヶ月も水が無いという状況になっていたでしょう。この水供給会社だって、給与や燃料、薬品などを買えずにつぶれていたでしょう。」

都市部における水供給システムの 90% は UNICEF が SODECA を支援することによって復興しました。SODECA はこの支援によって、自立して機能できるようになり、人々が使用量を払い始めたことによって、職員の給与や必要品等を自らまかなえるようになりました。



緊急物資 配布

どこであろうとも

—子どもたちが待つ場所へ



©UNICEFCAR/2014/Logan

「故郷が平和になって戻れるまで、ここで待っているんです。」

こう語るメモナは、中央アフリカ西部のベルベラティの町で、イスラム教徒に対する攻撃が苛烈を極めた時に逃げてきました。UNICEF とその協力団体は、彼女の住む避難民キャンプにトイレやシャワー施設を建設するとともに、彼女の家族にマット、毛布、テント、燃料缶、バケツ、石鹼、そして子ども用の衣類を含む「緊急キット」を配布しました。

人道危機に陥った中央アフリカ共和国で、どのような場所であろうと子どもたちに救援物資を届けること。UNICEF の主要な役割のひとつです。遠隔地に住む子どもや女性は、基本的サービスや人道支援へのアクセスが事実上皆無です。

中央アフリカ共和国はフランスと同じ位の大きさですが、舗装された道路は 700 km にも満たず、劣悪な道路環境と治安状況は、支援を必要とする人々に人道支援を届ける際の大きな障害となっています。また、紛争によって、ピーク時には同国の 5 人に 1 人が避難民となりましたが、治安が悪く、人道支援者が急な人々の移動に対応するのが困難です。1 月から 11 月にかけて、人道支援団体に対する暴力行為は 124 件にも上りました。その内、国連平和維持軍の 2 人を含む 18 人が命を落としました。最近の 3 ヶ月で人道支援車両やトラックに対する攻撃が増加しており、遠隔地での人道支援活動を更に難しくしています。

UNICEFの対応

- 2013年後半から現在までに、紛争で最も被害を受けた**5**地域に地域事務所を設けるなど、国内での活動規模を大幅に拡大しました。
- **920**万米ドル近くの緊急支援物資を供給しました。
- ラピッド・レスポンス・メカニズム（Rapid Response Mechanism : 緊急に最も支援を必要とする人々のための、最低限の生活用品、シェルター及び水衛生分野の支援を迅速に行うもの）を通じて、**20,600**世帯にテント、安全な水、トイレ、石鹼、燃料缶、マット、バケツ、毛布等の生活必需品を配給しました。



©Action Against Hunger

ボウカにおいて生活必需品を配布するUNICEF
協力団体のAction Against Hunger

他の誰も行けない場所へ 支援を届ける

中央アフリカ共和国はフランスと同じ位の大きさですが、舗装された道路は 700km にも満たず、劣悪な道路環境は、最も支援を必要とする人々に人道支援を届ける際の大きな障害となっています。

2014 年、首都バンギにある UNICEF 中央アフリカ共和国事務所本部から、遠く離れた東部のゼミオと呼ばれる町に地域事務を設立するため、1000km の道のりに車両隊が出発しました。道路環境が劣悪なため、4 日間運転しなければならず、非常に危険なため、軍の護衛が必要でした。護衛が遅れたために、運転手たちは途中で止まらなければならず、車両隊がゼミオに到着できたのは実に 2 週間後でした。

中央アフリカ共和国には、危険過ぎて、もしくは遠隔地であるために人道支援が全く行われていない地域があります。しかしその地域こそが、UNICEF が存在しなければならない場所です。最も困難な状況にある子どもたちを支援すること、つまり最も支援の届かない子どもたちを守ることに、UNICEF の使命があります。

この課題に、UNICEF は緊急対応メカニズム (Rapid Response Mechanism (RRM)) を採用し、戦闘・暴力が起こってから 15 日以内に対応できる体制を整備しました。具体的には、特別に編成された査定チームが現地に赴き、状況とニーズの把握をします。世帯の健康状況、食料や水へのアクセス状況、衛生環境、生活必需品があるかどうか等を実際に調査します。その調査結果を踏まえて、あらかじめ準備していた物資や資金を使って迅速に救援物資を配布します。

北部の町バタンガフォーで 8 月に戦闘が起こった際も、迅速に 3 つの緊急対応チームが編成され、新しい避難民キャンプで査定を行い、バタンガフォーとその近隣の 5 つの町で石炭、燃料、マット、バケツや毛布など、生活必需品を配布しました。

最近では、6 月より戦闘・暴力行為が多発する最も危険な地域であるバンバリの 2 つの村について緊急対応チームが結成され、物資配布が行われました。バタンガフォーで配られたのと同様の救援物資の他に、村が攻撃されて避難民となった 1500 世帯のために、仮設トイレが設置される予定です。

この国で遠隔地に住む子どもや女性にとって、緊急対応チームによる支援は唯一の頼みです。そしてこの支援は長期的な支援の足がかりとなります。このプロジェクトは欧州委員会人道支援・市民保護局から 130 万米ドルの支援を受け、最も支援を届けることが難しい地域、このプロジェクトが無ければ支援を全く受けることができなかった子どもたちのために活動することが出来ています。

緊急対応メカニズムに参加する協力NGO： *Action Against Hunger, ACTED, International Rescue Committee, PU-AMI and Solidarités*



©Solidarites International



© UNICEF/NYHQ2014-0079/Flynn

「飛行機がここへ飛んでくると、それは中央アフリカ共和国の人々が忘れられていない証。」首都バンギの空港に物資を運ぶ飛行機が到着するのを見ながら、UNICEFの広報チーフのリンダ・トムは言います。

米国国際開発省 (USAID) は、中央アフリカ共和国の人道危機に対する物資の空輸を含めた緊急対応のため、2014年1月から累計750万米ドルをUNICEFに対して支援しました。



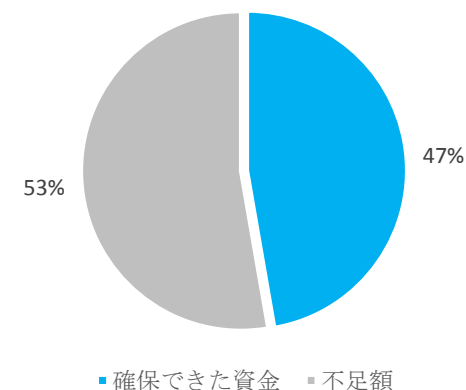
© UNICEF/CAR/2013/Duvillier

資金調達

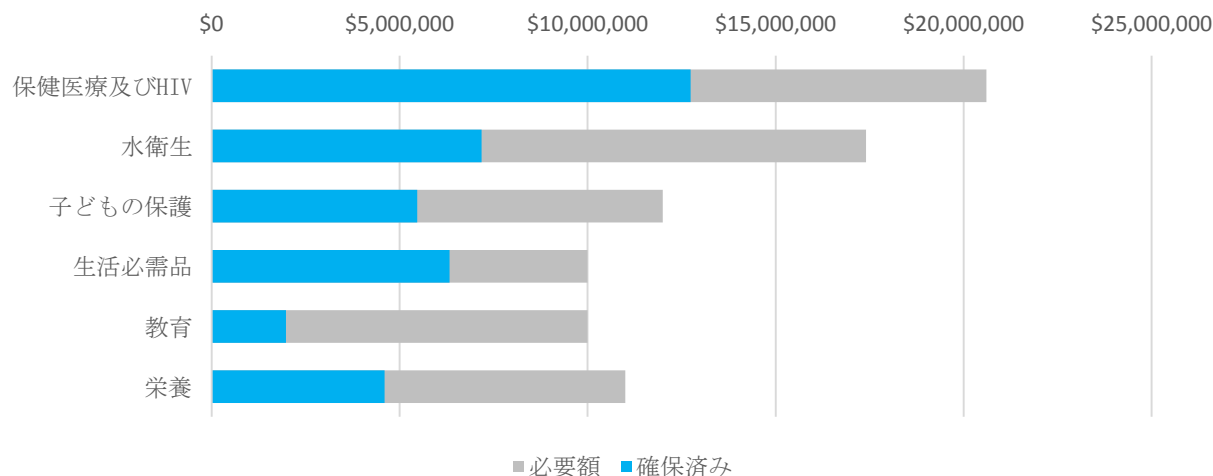
子どもたちへの支援を脅かす資金不足

今年、UNICEFは財源不足という大きな問題を抱えました。2014年当初、UNICEFは中央アフリカ共和国の紛争下にある子どもたちへの緊急支援のため、8,100万米ドルが必要だと発表しました。しかし、12月時点で確保できた財源は52%のみでした。子どもたちのために活動を続けるために緊急に必要な不足金については、UNICEF内部の緊急資金に頼りまかなうことができました。

しかし、最も支援を必要とする子どもたちに緊急支援を行うにあたって、この深刻な資金不足と劣悪な治安はUNICEFにとって大きな障害となりました。2014年11月時点で、はしかの予防接種を受けていない子は33,000人、重度の栄養失調の治療を受けられなかった子は5,000人、25万人もの人々が未だ安全な水を手に入れることが出来ていません。仮設学校で学ぶことが出来なかった子は約40,000人、推定6,000人から10,000人にものぼる武装組織に徴用されている子の中で、開放されたのは2,143人のみです。

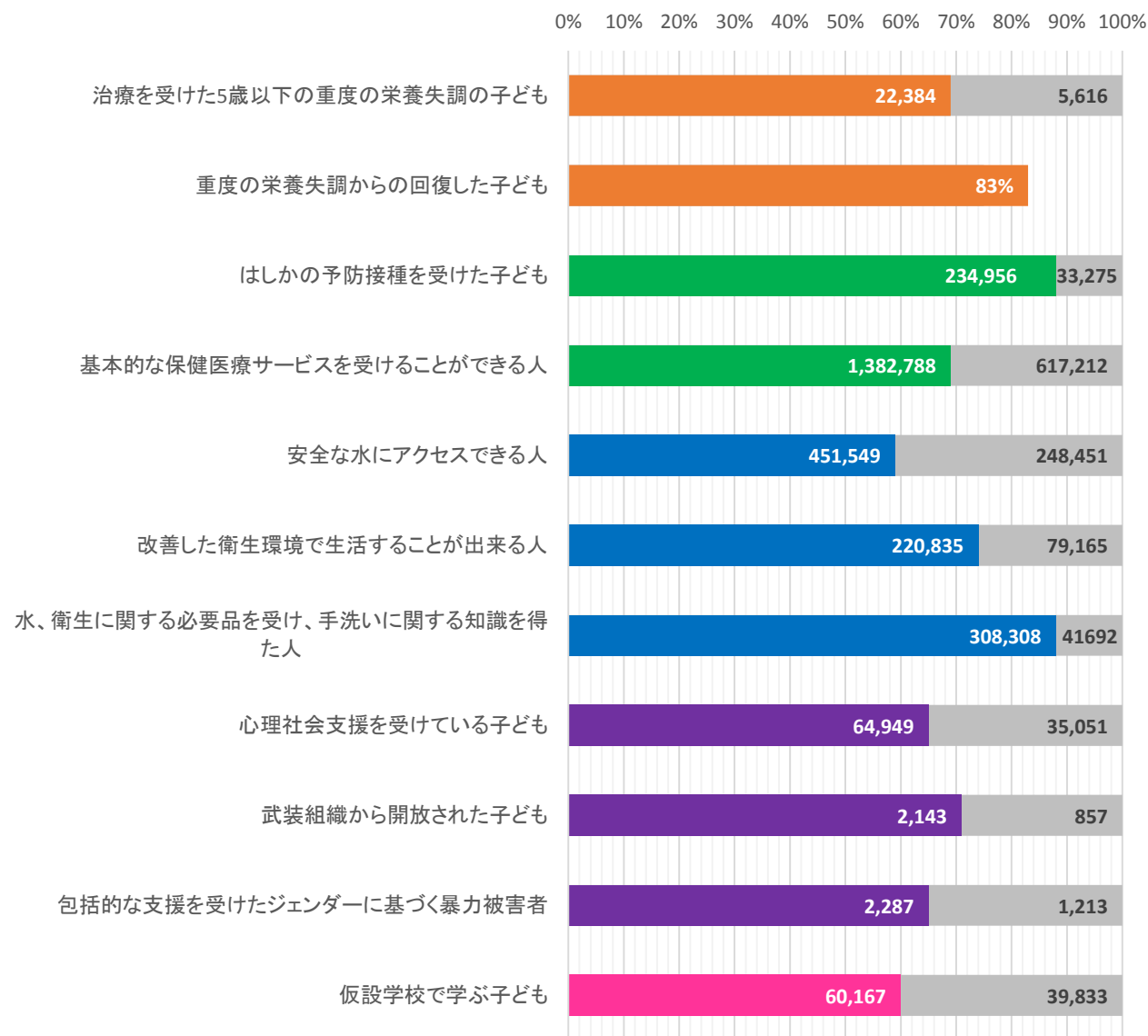


2014年の必要資金と不足額



十分な資金が無ければ、UNICEFは最も支援を必要とする子どもたちに手を差し伸べることが出来なくなります。支援とコミュニティ自体の能力強化をするための資金が大きく不足することは、この一年で積み上げてきた成果を無に帰すことにつながります。また、中央アフリカ共和国から流出する難民を受け入れる近隣諸国を支えるための資金も必要不可欠です。

2014年に支援した子どもと人々の数



中央アフリカ共和国の子どもを支援するのにいくらかかるの？

- 予防可能な様々な病気に対する予防接種：**55セント**
- マラリアを予防するための蚊帳：**3米ドル**
- 仮設学校で1ヶ月学ぶための経費：**10米ドル**
- 武装組織から開放された子どもへの包括的な支援（1ヶ月当たり）：**90米ドル**

より良い国への復興

2015 年は中央アフリカ共和国の子どもにとって大きな影響を及ぼします。この子どもたちが充実した、希望に満ちた子ども時代を送れるよう、政治的な判断がなされ、財源が投資されることが不可欠です。紛争からの復興は、これらの失われた基本的サービスを取り戻し、質・参加の両方を高める機会と捕らえることができます。UNICEF は、元の状態よりも優れた基本的サービスを提供できる国への復興を支援するため、以下のような支援を行っていきます。

- 急性栄養失調を診断・治療を行うことのできる地域社会に基づく診療所の復興を支援する。
- ポリオ、はしかなどの予防接種や衛生促進を呼びかけるキャンペーンを拡大して支援する。
- 持続可能な低コストで運営可能な、衛生・下水設備及び水道システムを導入し、都市部・遠隔地双方における衛生環境・安全な水へのアクセスを改善すべく支援する。

• 国による「バック・トゥ・スクール・キャンペーン」を通じて、子どもたちの学校入学、出席継続して支援する。

• 武装勢力に徴用されている子どもの確認と開放し、彼らが再び社会復帰できるようあらゆる支援を継続して行う。

• 地域社会に基づいた子どもを適切に保護できる体制を確保する。

• 様々な場面（学校、診療所、地域社会における会合、ラジオ番組等）を通じた平和的対話により、地域社会の結束・復興を促す。

• 子どもたちが生活するための最低限の収入を得、不可欠な社会サービスを受けられる体制づくりのため、より多くの社会投資を促進する。



明日への道のり

中央アフリカ共和国における人道危機が世界の注目を集めてから一年、子どもたちとその家族は、今この瞬間も、残酷な暴力の恐怖の中生きています。国際社会はこの人道危機に背を向けず、継続して関与し、支援し続けることが必要です。

子ども、女性、一般市民の保護を最優先に：性暴力、誘拐、強制移住、マイノリティの住民を包囲し食料、水、保健医療、教育を断つなどの深刻な人権侵害は、現在も毎日起こり続けています。こういった深刻な人権侵害の加害者は、法のもとに責任を追及されなければなりません。中央アフリカ共和国に派遣された国連平和維持軍は市民を守る使命を持って活動していますが、まだ完全に機能するに至っていません。紛争調停と平和の礎を築くこの時に、**UNICEF**はコミュニティ間、宗教間の不和を解消する支援を行う立場にあります。

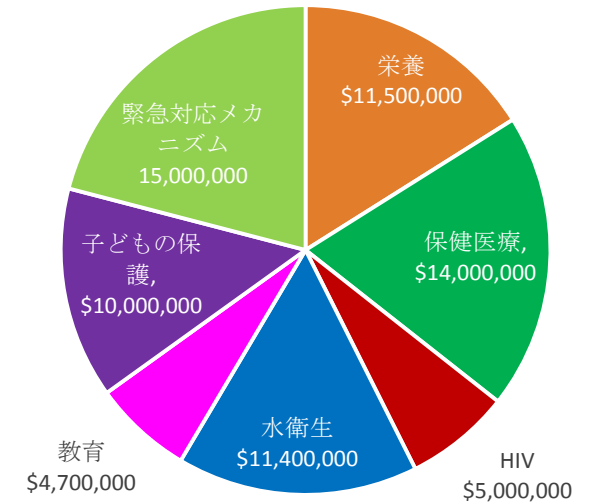
人道支援：縮小ではなく改善を：中央アフリカ共和国において、未だかつてこれほど多くの人道支援機関が活動したことはありません。**UNICEF**とその協力団体は、子どもへの支援を拡大し、意義ある成果を生み出すことができました。現時点で支援を減

速することは、この1年の進展を逆戻りさせることに他なりません。

基本的社会インフラの復旧：紛争からの復興は、医療保険、水衛生、子どもの保護及び教育等の最も基本的な社会サービスを、元の状態より良い状況に立て直す機会でもあります。国際社会は、人道危機の際に破壊された基本的社会サービスを、人道危機以前の世界的にも最低の水準に戻すのではなく、より良い状況に復興することを支援しなくてはなりません。

難民支援と地域全体の安定化：紛争の影響は中央アフリカ共和国国内のみに留まりません。周辺国を含める地域全体の不安定化と、テロ行為の脅威を増加させる危険性をはらんでいます。国境を越えて起こる暴力・戦闘行為は周辺国との関係に大きく影響します。同時に、難民となって周辺国へ流出した人々への支援不足は深刻です。大規模な難民の流出で、受け入れ側の周辺国やコミュニティの負担が増大していますが、これら難民、受け入れ側、また帰還民への支援など、難民を抱える地域全体のニーズに応えるための必要な財源が確保できなければ、何千もの子どもたちが基本的サービスを受けることができなくなります。

2015年の必要資金概算



ご支援・ご協力への感謝

UNICEF の活動は、現地での直接の活動や物資調達の中心的役割を担う政府や NGO との強固な連携によって可能になります。また、最前線で自発的に活動に参加する組織やボランティアは、その時間を捧げて子どもへの支援を行いました。

中央アフリカ共和国の子どもたちの状況を改善するという使命を分かち合い、支援をいただいた各国政府、ユニセフ協会、企業や個人の方々にも深い御礼を申し上げます。

ユニセフ協会

カナダ・ユニセフ協会
チェコ・ユニセフ協会
デンマーク・ユニセフ協会
フィンランド・ユニセフ協会
フランス・ユニセフ協会
ドイツ・ユニセフ協会
香港ユニセフ協会
イタリア・ユニセフ協会
日本ユニセフ協会
ルクセンブルグ・ユニセフ協会
ノルウェー・ユニセフ協会
ポーランド・ユニセフ協会
スペイン・ユニセフ協会
スイス・ユニセフ協会
中国UNICEF事務所
イギリス・ユニセフ協会
アメリカ合衆国UNICEF基金

政府

アンドラ
オーストラリア
ベルギー
カナダ/国際人道支援
フィンランド
フランス
ギリシャ
欧州委員会人道支援・市民保護局 (ECHO)
イタリア
日本
マルタ
ノルウェー
韓国
スイス
イギリス
米国国際開発省 (USAID)

その他

国連中央緊急対応基金 (CERF)
GAVI基金
教育のためのグローバル・パートナーシップ
マルチ・ドナー信託基金
世界銀行

執筆： Madeleine Logan、 Linda Tom
執筆協力： Pablo de Pascual、 Cairn Verhulst
校正： Thierry Delvigne-Jean、 Rouxanna
Lokhat、 Fatou Binetou Dia、 Laurent Duvillier、
Rose Foley
コーディネーション： Madeleine Logan、
Thierry Delvigne-Jean
表紙写真： ©UNICEF/NYHQ2014-0329/Grarup
デザイン： Green Eyez Design S.A.R.L.
December 2014

お問い合わせ
UNICEF中央アフリカ事務所
P.O Box 907
Bangui
Central African Republic
bangui@unicef.org ; mmfall@unicef.org
Twitter: @UNICEF_CAR
Facebook:
www.facebook.com/UNICEFCARCoordinated

